

# 持妙法華問答抄

御書新版 519頁 2行目〜6行目  
御書全集 467頁 16行目〜18行目

寂光の都ならずば、いづくも皆苦なるべ

し。本覚の栖を離れて、何事か楽しみなるべき。

べき。

願わくは、「現世安穩、後生善処」の妙法

を持つのみこそ、ただ今生の名聞、後世の

弄引なるべけれ。すべからく、心を一にし

て南無妙法蓮華経と我も唱え他をも勧めん

のみこそ、今生人界の思い出なるべき。

## 語句

### 寂光の都

久遠の仏の住む永遠の仏国土。法華経如来寿量品第16では、この現実世界が久遠の仏の永遠の仏国土であり、妙法への強盛な信によって、その真実を覚知し、功德を享受できると明かしている。

## 通解

久遠の仏の住む永遠の仏国土でない

なら、どこであつても皆、苦しみの世界である。生命本来の仏の覚りの境地を離れて、何が楽しみとなるだろうか。

願わくは、（法華経薬草喻品第5に）

「現世は安穩であり、来世には善い所に生まれる」と仰せの妙法を持つこと、そののみが、今世の眞の名誉であり、来世の導きとなるのである。

ともかく、全精魂を傾けて、南無妙法蓮華経と自身も唱え、他の人にも勧めることこそが、人間として生まれてきたこの一生の思い出となるのである。

### 本覚の栖

久遠の仏の本来の覚りの境地。あらゆる生命に本来そなわる仏の覚りの境地でもある。